

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針	校訓「質実剛健」「自主創造」に掲げる精神に基づき、心身ともに逞しく文武両道を実践し、気高さを追求する豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。			A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
校訓に掲げる精神を踏まえ、嘉穂高生としての自覚と「気高さ」を身につけた生徒の育成が実現できた。 ICT機器を有用に活用するなど、新たな学びを取り入れた授業改善をさらに充実させることで、生徒の学力向上と生徒主体の第一希望進路の実現を図る。 歴史と伝統を踏まえ、中高一貫教育校としての新たな文化を創造し、地域の期待に応える人材育成を実践する。	地域に根ざした中高一貫キャリアプログラム「嘉穂Dream Compass」を軸として、生徒の個性や能力を引き出し、生徒の第一希望進路の実現を図る。	主体的・対話的で深い学びやICTを用いた授業を展開し、生徒の探究心を育てる。 ガイダンス機能を充実させることで、生徒が主体的に明確な進路選択を行い、キャリアプランニング能力を育成し、希望する進路への実現を目指す。			
	あらゆる教育活動において言語環境を適切に整備し、生徒への情緒的サポートを推進する。	地元の自治体、企業や大学等と連携を図り、広い視野に立つて考える力やコミュニケーション能力を養い、将来国内外で活躍できる人材を育成する。			
	指導と評価の一体化を定着させ、新たな時代が求める学力を向上させる。	授業を計画、実施した後の評価を次に生かすことで、授業向上や個別最適化の授業を行い、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。			
	学校生活全般にわたり、挨拶と礼節を兼ね備えた生徒の育成と生徒の自主活動を促進する。	文武両道の精神を重んじ、学習や部活動、学校行事を通じて挨拶と礼節を兼ね備えた生徒の育成を目指すとともに、自主的に活動できる生徒を育成する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
生徒の探究心の育成	主体的・対話的で深い学びを促す授業展開による工夫	ICT機器やデジタル教材の活用支援、言語活動を多く取り入れた対話的授業の推進により、生徒の探求心を育成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroom等のオンラインの活用を推進する。 ・新共通テスト試験実施科目を踏まえた教育課程の再検討を行う。 ・新課程での入試等に向けた学習支援について随時情報を発信し、教員間での共通理解を持つ。
	「知る」「深める」「発する」スキルの育成	学校内外を問わず様々な体験活動への参加や、行政・企業と連携した探究活動を通して、生徒の複眼的思考を育て、将来像を明確にする手助けとする。また、ICTを活用した情報編集のスキルを身につけさせる。	A		
	変化する教育課題に対応できる研修の充実	中高一貫6年間の教育活動を検証し、各教科のシラバスやクラス編成等を再検討する。また、令和7年度実施の新共通テストの方向性も踏まえて、新課程の教科・科目に関する研修会を実施する。	B		
生徒の進路意識の高揚	社会に貢献する自己実現を図る指導の工夫	進路講演会や進路ガイダンスを通して、これからの社会での自己の生き方や在り方を考え、自己理解を深め、自身の適性や将来の目標を見定め、生き方を切り開く力につなげる。	B		
	確かな学力と目標意識の育成	課外授業、進路別講座や模擬試験の適切な企画・運営や、自学支援プログラムの活用を通して、生徒の第一希望進路実現に向けて確かな学力を身につけさせる。	A		
		最新の教育動向を踏まえた適切な進路情報の提供を行い、生徒と保護者の進路意識を高める。	A		
生徒支援の充実	自覚と誇り、自立心と気高さを身につけた生徒の育成	儀式や集会を通して規律や礼儀を重んじ、品格に満ちた態度を養う。また、行事を通じて協働の意味を理解し、自信と行動力を身につけさせる。	B		
	生徒の心の健康と自己管理の支援	面談を通して生徒の理解を深め、生活面での確かな指導を行う。また、スクールカウンセラーによるカウンセリングを充実させ、心の健康をサポートする。	A		
自殺・いじめ防止	特別な教育支援を必要とする生徒への合理的配慮の推進	特別な教育的支援や配慮を要する生徒に対して、特別支援教育コーディネーターや養護教諭、スクールカウンセラーと連携し計画的に支援を行う。	A		
	自他の人権や生命を尊重する生徒の育成	面談や教師の語りかけ、各種講演会を通して望ましい自己の在り方を模索させ、同時に他者を思いやる心の育成を図る。周年行事のため例年と異なる企画への挑戦を促し、主体性を育む。	A		
		職員研修により職員の人権感覚を高める。年4回の人権教育授業を行い、教育活動全般において自他の人権を尊重し、行動できる生徒を育成する。	A		
生徒の学習意欲の喚起・授業改善	生徒の学習活動を支援するフィードバックの充実	担任による個別の学習ガイダンスを充実させるとともに、生徒の学習状況を保護者と情報共有することでフィードバックによる生徒への学習支援を充実させる。	B		
	授業研究による指導内容と評価の一体化の推進	授業めあての明確化、観点別評価の充実により、生徒個人の学習成果や課題を詳細に把握し、PDCAサイクルによる授業改善を図る。	A		
		附属中学校と連携した相互授業参観を行い、中高の学習の連携を深める。授業アンケートを2回行い、教師が自己の授業を検証できるようにし、授業改善へとつなげる。	B		
文の育成	自ら学ぶ意欲を持つ生徒の育成	5分前行動の精神と凡事徹底の態度を育て、予習・授業・復習の学習サイクルを定着させ、主体的に学ぼうとする姿勢を涵養する。	B		
武の育成	嘉穂高生としての自覚と誇りを持った生徒の育成	正しい礼節を学ぶとともに、幅広い知識と判断力を持ち、社会のあらゆる領域で有為の人材となりえる生徒を育成する。	A		
	たくましさや自立心を身につけた生徒の育成	部活動のさらなる活性化を図り、「文武両道」の実践と心身の健全な育成を推進する。	A		
学校広報	PTAや地域と連携した教育活動の活発化	PTA各委員会の活動を適切に行い、学校評議員会や学校関係者評価委員会を通して、地域の声を取り入れ、学校教育に活かす。	B		
	積極的な広報活動	学校新聞やパンフレットの刷新、ホームページの適宜更新により、部活動大会実績、大学合格実績や学校行事等、速報性の高い情報を、中学校・学習塾・地域に向けて積極的に発信する。	A		
科学・情報プログラム、グローバルプログラムの充実	科学技術系人材の育成	地域の科学・情報技術産業との連携や研修、大学の講義や実習等「本物に触れる体験」を通して、生徒の興味関心を広げ、探求する姿勢を養う。	A		
	グローバルマインドの育成	海外研修や異文化交流等を通して、いかに地域や社会で貢献できるかを意識した新しい課題解決策を創造する力を育成する。	A		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	自己評価は
	A 適切である
	B 概ね適切である
	C やや不適切である
	D 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	ICT機器を頻繁にかつ有効に活用しており、生徒の学力向上へ向けた授業が展開されている。大学入試改革に翻弄されることなく教育活動を展開してほしい。
A	コロナ過のため、体験学習が不足していることは否めないが、工夫を凝らし、可能な限りの取組ができています。
B	スクールカウンセラーによる生徒や保護者へのカウンセリングがこまめに行われている。
A	問題を抱えている生徒に対して、担任や養護教諭を中心に学年・学校全体で取り組んでいる。今後もSC等との連携を深め組織的にかかわってほしい。
B	観点別評価の導入により、生徒を客観的・多角的に評価できていると思うが、さらなる改善を進めてほしい。
B	より一層の充実を期待している。
A	嘉穂の伝統を継承し、自ら考え行動できる生徒の育成を今後も継続してしてほしい。
A	コロナ過の中、十分な活動ができなかったが、今後も協力体制を継続して取り組んでほしい。
A	校外での活動が実施できないものもあったが、可能な限り取り組んでいることは評価できる。
評価項目以外のものに関する意見	
教職員の健康にも気を配り、働き方改革を進めて教育活動を展開してほしい。	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・総合的な探求の時間にSDGsを中心とした地域創生の課題研究をさらに進化させる。
- ・産官学の連携を強化し、可能な限り校外研修の実施を行い、嘉穂Dream Compass の充実を図る。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を密にし、生徒の心の健康支援を深める。
- ・指導と評価の一体化への取り組みを検証し、授業改善を進める。